

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立武雄小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上…個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りつつ、児童一人一人の学力向上につながる授業改善を全職員で継続して行う。 ・望ましい生活習慣…家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を図る。スマートフォンをはじめとする情報機器との付き合い方に関するお便りや講演会等を通じて、児童や保護者へ啓発を図る。 ・心の教育…「ほめるからはじめる、はじまる」を常に意識し、児童が将来の夢や目標をもち、学校や家庭で目標をもって生活できるような活動を仕組んでいく。 ・業務改善・働き方改革…それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を推進し、定時退勤日をはじめ、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。・
2 学校教育目標	夢と志をもち、意欲的に取り組み、自己肯定感に満ちた児童の育成 ～学校はみんなで創る～
3 本年度の重点目標	1 誰一人取り残さない 安心安全で 温かい環境を創る。○一人一人を大切にし、規律の中に温かさのある学級を創る。 2 自分の夢や目標をもち、すすんで挑戦し続ける力を創る。○自ら考え、選び、決め、行動する力の定着を図る。 3 地域のよさを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育む。○地域と連携し、子どもが「地域の『ひと』『もの』『こと』のよさ」に気づき、学び、発信する学習体験活動を創る。

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目									
重点取組			中間評価		最終評価			学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」(リーディングDXスクール事業)を実現するための授業改善と授業力の向上。	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための授業改善をした教師90%以上。 ○ICT機器の「効果的な活用の仕方」を学び合う研修を実施し、授業改善に行かせた教師85%以上。	・単元でどんな力を身に付けるのか、学習のゴールを明確にする。 ・単元や授業の可視化、評価の共有などを通して、児童にとって個別最適で協働的に学ぶ環境を作る。 ・校内研究でも学び合う研修を実施し、児童が生きて働く学力を高める授業を追究する。	・		・		・	学力向上コーディネーター(井手) 研究主任・副主任(徳永・小宮) 教育情報化推進リーダー(森)
	○基礎学力の定着。	業者テストの平均80点以上。	・年間を通じて学力向上タイムを設け、全校で国語と算数の基礎学力を定着を図る。 ・学年に応じた家庭学習への取り組みを徹底する。						学力向上コーディネーター(井手) 研究主任・副主任(徳永・小宮)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○学校行事や日頃の生活、道徳の授業等をを通して、児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めていると回答した教師90%以上。	・校内支援委員会や児童連絡会で情報を共有し児童理解の力を高め合い児童の支援に繋げる。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。	・		・		・	道徳教育推進教員(馬場)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校で安心して楽しく過ごせているという保護者90%以上。	・週に1回の「気になる子」報告会と、心のアンケートでいじめにつながる可能性がある事案に早期対応する。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。	・		・		・	人権・同和教育担当(森・松永) 生徒指導主任(森)
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上。	・特別活動や総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の学習の場をつくる。 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、学校生活の中でめあてをもったり、自己を振り返ったりするとともに、夢や目標を考える時間を設け、主体的に学びに向かう力ややり抜く力を育成する。	・		・		・	特活主任(平井) 各学級担任
	○ふるさと「武雄」の良さを学び、感謝や思いやりの心の醸成。	○ふるさと「武雄」の良さを学ぶとともに地域をはじめとする周囲への感謝や思いやりをもてたと回答した児童80%以上。	・地域人材や「もの」を意図的・計画的に活用し、郷土を愛する児童を育てる。	・		・		・	心の教育部
	○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する児童一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師85%以上	・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなどを動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。	・		・		・	保体部
●健康・体づくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を85%以上。 ②「健康に良い食事をしている」児童90%以上。	①「生活リズムチェックシート」の活用を通して、家庭で生活習慣の見直しを図る機会をつくる。 ①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	・		・		・	食育担当(千賀・田中) 養護教諭(塚本)
	○日常の給食指導や生産・体験学習等を通して、「食」の大切さに気づき、健康な体作りを実践しようとする態度の育	○「食」の大切さに気づき、健康な体作りをしようと思った児童90%。	・給食指導や食の授業等を通して、自分の「食に対する見方や考え方」を見つめ直す機会をつくる。(「食は命」の教育)	・		・		・	食育担当(千賀・田中) 養護教諭(塚本)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○個人の勤務超過時間の平均40時間以内が実施できた職員85%以上。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日に定期退勤日を設け、定時退勤を呼び掛ける。 ・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。 ・年次休暇の取得を適宜呼びかける。	・		・		・	教頭・事務長
	○やりがいをもって安心して元気に働ける職場環境の整備。	○やりがいをもって元気に働けたと回答した教師80%	・ヒアリング等を通して、具体的なキャリアプランを持ち、業務改善や人材育成を図っていく。 ・勤務時間内で校務が対応できるように業務改善、見直しを行う。 ・電子回収板等の機能を有効に活用して会議の時間・回数の前年度比1割削減を図る。	・		・		・	教頭・事務長
●特別支援教育の充実	○保護者や専門機関との連携し、個に応じた指導を行う。	○児童との関係を大切にした相談活動を充実させ、昨年より個に応じた指導ができたと回答した教師80%以上。	・計画的、定期的に会議(支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等)を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。	・		・		・	心の教育部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	
○	○地域・育友会と連携し共通理解を図りながら、教育効果を高める活動を精選し実施する。	○地域の力を貸していただき、児童が生き生きと学習できる環境を構築する。地域の方のゲストティーチャーとしての活用について肯定的な回答をする児童と地域の方々80%以上	・地域連携事業で実施してきた体験活動を、現在の学校教育課程に合った形で見直し、「地域のひと・もの・こと」と出会う学習体験の場になるように働きかける。 ・連携の要である学校運営協議会と協議しながら、「健康」「食育」「環境」教育に繋がる事業へと精選し、教育活動に効果的な活動へと見直す。	・		・		・	教務
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育									
5 総合評価・次年度への展望									